

神奈川県金融経済概況（2016年7月）

I. 概況

神奈川県の景気は、回復の動きが一服している。

すなわち、企業部門をみると、生産は足もと横ばい圏内の動きとなっている。輸出は足もと減少に転じている。設備投資は一段と増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しているが、個人消費は弱い動きがみられる。この間、住宅投資は増加しているほか、公共投資は振れを伴いつつも増加している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 生産： 足もと横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 輸送機械は、国内向けトラックが堅調な一方、新興国向けトラックや国内向け乗用車が低迷しており、弱めの動きがみられる。
- ・ 素材関連は、化粧品や洗剤が増加しているほか、鉄鋼が市況の底打ちを受け海外向けを中心に幾分増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスなどが減少しているほか、発電施設向け機器の生産規模の縮小の影響もあり、大幅に減少している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、外需向け建機やはん用機械類が引き続き低調に推移しているものの、半導体等製造装置が増加しているほか、工作機械も堅調に推移していることから、持ち直している。

(2) 輸出： 足もと減少に転じている。

- ・ 東アジア向けが下げ止まっているものの、北米向けやヨーロッパ向けの自動車の減少などから、足もと減少に転じている。

(3) 設備投資： 一段と増加している。

- ・ 16/6月短観における、16年度の設備投資は、既存設備の維持・更新に加えて、研究・開発投資や業容拡大を企図した能増投資、工場・営業所の増設などもみられており、前年を2割方上回る計画となっている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 5月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.26倍と、前月の水準（1.24倍）を上回り、統計が公表されている05/2月以降、最も高い水準を更新した。また、4月の現金給与総額は前年比+0.6%となった。

(5) 個人消費： 弱い動きがみられる。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調なものの、衣料品や身の回り品の売上が落ち込んでいることから、前年を下回っている。なお、7月入り後の夏のセールは好調との声が多い。
- ・ スーパー売上高は、振れを伴いつつも、底堅く推移している。
- ・ 家電販売額は、携帯電話やパソコンなどの動きが鈍いものの、高機能製品を中心に白物家電が堅調なほか、季節家電が足もと伸長しており、全体では前年比マイナス幅が縮小している。
- ・ 新車登録台数は、小型・普通乗用車では、ハイブリッド車の需要が堅調な中、一部メーカーの挽回生産もあって前年を上回っているものの、軽乗用車が燃費データ不正問題の影響等から前年比マイナス幅が拡大しており、全体では前年を下回っている。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、これまで一部にみられていた弱い動きもかなり払拭されており、総じて堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、貸家が減少したものの、住宅ローン金利の低下を背景に、持家、分譲戸建て、分譲マンションが増加している。

(7) 公共投資： 振れを伴いつつも増加している。

- ・ 6月の公共工事請負額は、地方公社や県、国などが減少したことから、前年を下回っている。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、月末日の曜日要因により前年比プラス幅は縮小しているものの、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：4月+1.7%→5月+1.2%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：4月1.301%→5月1.288%）。
- ・ 「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入後、固定型住宅ローンの店頭表示金利を引き下げる（▲0.100～▲0.500%ポイント）先が多くみられているほか、変動型住宅ローンの優遇金利を引き下げる先もみられている。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、月末日の曜日要因により前年比プラス幅は縮小しているものの、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：4月+2.5%→5月+2.0%）。
- ・ 「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の導入後、普通預金および定期預金の金利が低下している（普通預金：▲0.019%ポイント、定期預金：▲0.015～▲0.150%ポイント）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。